

# 輪島塗大型地球儀 「夜の地球」

## STORY 1

現代の生活様式の変化によって急速に変容を迫られることとなった伝統文化を継承するため、国は歴史上または芸術上価値の高いものとして重要無形文化財を指定し、これを次世代に伝えることのできる



保持団体を認定しています。室町時代からその芽生えが始まる輪島塗には、数百年にわたり技を磨き積み重ねながら、人々の暮らしを豊かに彩ってきた歴史があります。輪島塗技術保存会は1977年に認定を受け、技の保存伝承に努めてきました。

## STORY 2

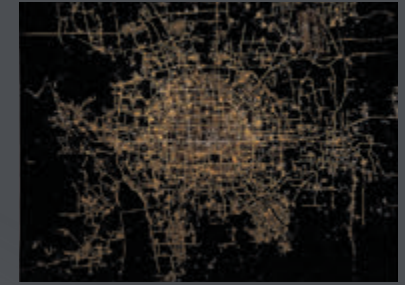
多彩な魅力にあふれた漆芸は日本を代表する工芸です。世界に誇る技術力の高さと、工芸素材として他に代えがたい美しさを多くの方に伝えることは、輪島塗の保存伝承に欠かせません。これを体現する



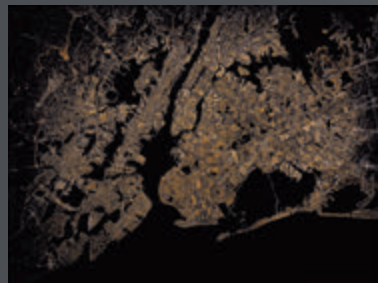
作品を輪島塗技術保存会が総力をあげて制作することとなりました。輪島塗は職能による分業体制が確立しており、輪島塗技術保存会もこれに即した「わんぎのきじ 椀木地」「まがものきじ 曲物木地」「さしものきじ 指物木地」「はら 木地」「ききうしつ 髹漆」「ろいろ 呂色」「たごん 蒔絵」「しん 沈金の8部門で構成されています。一致協力した共同制作プロジェクトに5年の歳月をかけて挑みます。



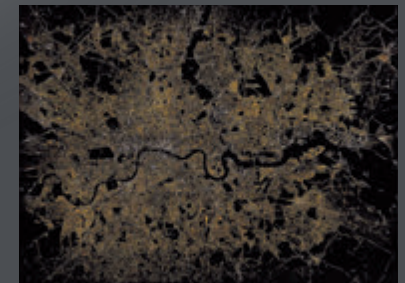
東京



北京



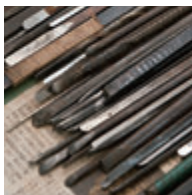
ニューヨーク



ロンドン

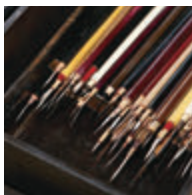
## STORY 3

輪島以外では実現不可能な、困難を極めたもの作りでなければ本プロジェクトの意味はない—輪島塗技術保存会は自らそう決めました。制作することになったのは、佐賀県武雄市に伝わる重要文化財の地球儀をモデルとし、輪島塗の製法に則った大型地球儀と、世界4都市を表す蒔絵パネルです。直径1メートルに及ぶ大型の真球を輪島塗でつくることは、熟練の技術者たちさえ経験がありません。かつてない挑戦が始まりました。



## STORY 4

様々な課題に直面しながら、その都度、技術者たちの経験と知恵で乗り越えてきた輪島塗大型地球儀「夜の地球 Earth at Night」は、2022年3月に完成しました。宇宙に浮かぶ幻想的で美しい夜の地球の姿と都市の夜景図を、漆芸にしか表せない漆黒と金の輝きで表現しています。地球儀を眺めることは、世界を俯瞰で捉える視点を見る人に与えてくれます。対立や分断を超えて他者に思いを巡らすことの意味を、輪島の片隅から世界に向けて伝えていく作品として、永く愛され続けることを願います。



### 開館時間

9:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)

### アクセス

#### 飛行機

羽田空港から約60分  
▶のり山空港から車で約20分

#### 車

金沢市内▶のり山海道利用=約100分  
(自家用車・大型バス無料駐車場有)

#### 特急バス

金沢駅▶北鉄奥能登バス「輪島駅前」下車  
=約120分

#### 「輪島駅前」から

▶のらんげバス海コース「漆芸美術館」下車  
▶徒歩約15分



〒928-0063  
石川県輪島市水守町四十笥11番地  
TEL 0768-22-9788  
FAX 0768-22-9789

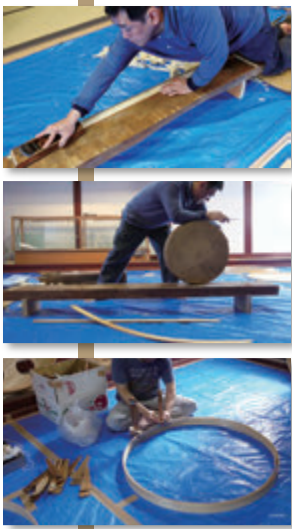
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>

WAJIMA MUSEUM OF URUSHI ART  
石川県輪島漆芸美術館

輪島塗大型地球儀  
「夜の地球 Earth at Night」







地球儀の最重要箇所は球体である。球体の最小単位は、アテ（ヒノキアスナロ）材の板を薄く削って曲げた輪だ。緻密な計算に基づいて揃えた大小の曲輪は 295 本に及ぶ。これを大から小へ積み上げながら漆接着を繰り返す。いくつかのブロックに分けた組輪ができた。

## 木を識り



球体を構成する組輪をろくろ挽きで成形する。最大のものは直径 1メートル以上に達していた。組輪ごとに型をあて、狙ったカーブを挽き出していく。わずかでも挽き過ぎれば球体の形は損なわれてしまうので、慎重に作業を進めた。最後に組輪を接合した姿は、まさに真球となっていた。



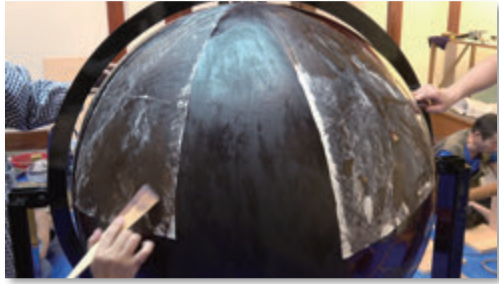
球体を受け止める台脚部分には、ケヤキ材とホオ材を使用している。球体の周りに位置する水平環は、小さなパーツを 1本ずつ漆接着した寄木造りである。外縁の曲線は幾種ものカンナを使い分けて整えられた。



球体の重量がかかる中心の柱や丸脚は挽物である。モデルとした地球儀の優美な姿を参照し、丁寧な造形が図られた。球体に続いて完成した台脚の部品を仮組みして全体のバランスを確認した。



重要無形文化財としての輪島塗には、定められた髹漆（漆塗り）の工程がある。生漆を吸わせる木地固め、材と材の継ぎ目に施す刻字、麻布を貼る布着せといった、基本的な工程を丹念に積み重ねていく。漆の硬化を促進するために、髹漆工程の途中で木材乾燥用の加熱炉を利用する決断にも踏み切った。



輪島塗の最大の特徴は、輪島地の粉（焼成粉末化した珪藻土）を下地漆に用いることにある。地の粉の粒子の大きさにより一辺地、二辺地、三辺地と下地漆を塗っては研ぐことを繰り返した。

## 漆を生かし

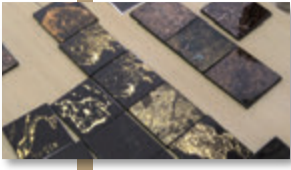
下地付けの度に、脚の角や水平環の縁など欠けやすい箇所に生漆を塗る地縁引きは、堅牢を旨とする輪島塗の伝統的な手法のひとつである。



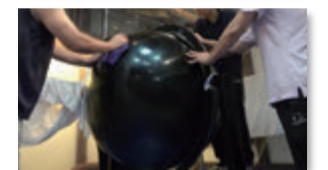
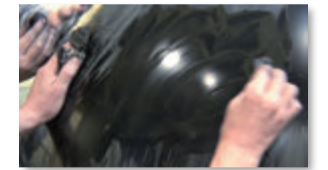
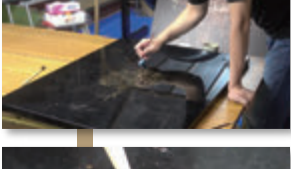
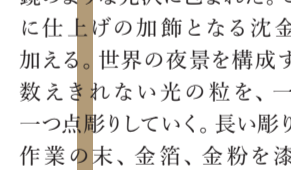
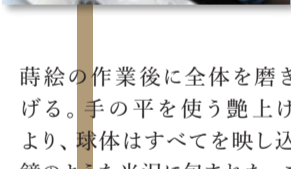
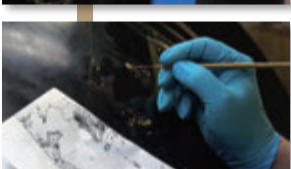
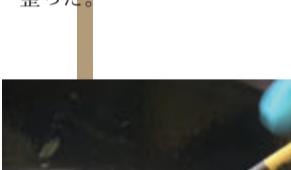
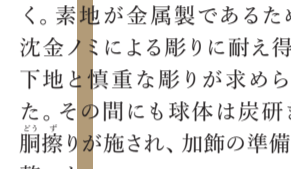
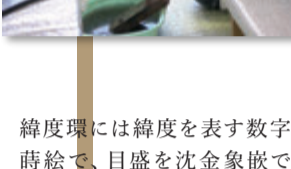
球体の中塗り、上塗りでは、漆の粘度や硬化速度、塗りの厚さ、加湿の加減など、仕上がりに大きく関与する様々な要素について、最適な選択をするため技術者たちの知見を結集した。また、球体と連結する金属製の緯度環は、漆焼付けを施して他の木製部品と違和感のないように黒漆塗りとした。すべての髹漆が完了して輪島塗地球儀の全貌が現れた。



宇宙から見た夜の地球、その幻想的な姿の表現に不可欠だったのは、確実なデータに基づいた下図である。



衛星画像を処理した下図の作成には金沢美術工芸大学の協力を得た。これを蒔絵と沈金の技に置き換えるため、数々の試作を重ねた。一方、球体を囲む水平環を飾るのは、大気や水をイメージした文様である。球体への映り込みを考慮して、螺鈿を併用した研出蒔絵に半透明の漆を塗り重ねた。

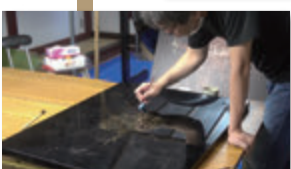
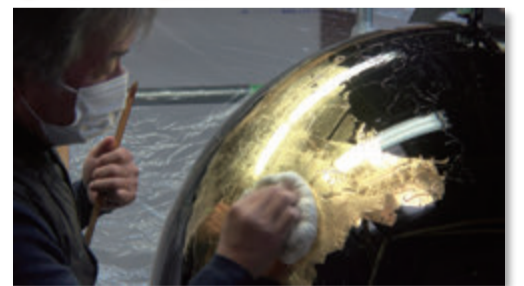


緯度環には緯度を表す数字を蒔絵で、目盛を沈金象嵌で描く。素地が金属製であるため、沈金ノミによる彫りに耐え得る下地と慎重な彫りが求められた。その間にも球体は炭研ぎ、胴擦りが施され、加飾の準備が整った。

真球の美しいラインを維持するため、陸地部分をごく薄く盛り上げる。すべての海岸線を蒔絵筆で描き、その内側に乾漆粉を蒔いて塗り込めるのである。その上に、明るく輝く世界の都市部分を金の研出蒔絵によって描き出した。

蒔絵の作業後に全体を磨き上げる。手の平を使う艶上げにより、球体はすべてを映し込む鏡のような光沢に包まれた。ここに仕上げの加飾となる沈金を加える。世界の夜景を構成する数えきれない光の粒を、一つ一つ点彫りしていく。長い彫りの作業の末、金箔、金粉を漆で定着させて夜の地球は輝きをまとった。

## 輝きを纏わせる



地球儀を取り囲む 4枚の作品は、東京、北京、ロンドン、ニューヨークの 4都市の夜景を、金とプラチナを主体に仕上げたものだ。一粒の輝きや闇の中に無数の人間の暮らしが包含されていることを物語り、「夜の地球 Earth at Night」は完成した。